



## 価値の高い補綴臨床を提供するために、 チェアサイドとラボサイドで共有する24の「核心」

チェアサイドとラボサイドの連携が生む  
質の高い補綴のための核心 24

佐野隆一 著

A4 判変／120 頁／定価 7,040 円（本体 6,400 円＋税 10%）／医歯薬出版（2023 年 9 月）

1976 年当時、歯科衛生士になったばかりの私が勤めた歯科診療室は、修復・補綴治療を希望される患者さんで溢れていて、院内技工室には常時 3 名の歯科技工士が忙しそうに働いていました。診療室と技工室はドア 1 枚で仕切られていましたが、<sup>あふ</sup>歯科医師・歯科助手・受付事務そして歯科衛生士たちがそこを行ったり来たりしながら、さまざまなやりとりをしていたものです。そう、昔の技工室のほとんどは診療室と隣り合わせにあったのです。「印象を採ったら技工室に直行して即石膏注入」の流れで、もしも印象に不備があれば歯科技工士から直接コメントを受けることができたので、最小限の時間のロスですみました。歯科医師と歯科技工士の対面でのコミュニケーションも盛んに行われていて、補綴装置の再製も最小限であったように記憶しています。

時代の流れとともに歯科事情も大きく変遷しました。ことに診療室と技工室が物理的に離れてしまったことは大きな変化です。したがって本書のタイトル「チェアサイドとラボサイドの連携が生む 質の高い補綴のための核心 24」というのはまさに時を得たものだと思いますし、前著「チェアサイドとラボサイドで共有したい補綴再製をなくすための臨床テクニック 24」に続く力強い内容の著書であると思います。

チーム医療を実践していくうえで「連携と共

有」は現代の歯科が抱える大きなテーマともいえます。そのなかで私たち歯科衛生士にできることは、なんなのだろうと考え、以下の 3 つに絞ってみました。

### 1. 情報の共有「まず伝えましょう」

診療の合間に患者さんとの対話で知り得た情報を正確に歯科医師・歯科技工士へと伝達することは、臨床における問題解決に有効な手段となります。

### 2. 模型作製への貢献「まず計りましょう」

デジタル・アナログを問わず模型作製で重要なことは「正確性」です。この点で私たちが診療室でできることは、作業手順の標準化と機材の管理、そして時間の管理になるでしょう。とりわけ計量と計測はたいへん重要です。こうした正確性が求められる業務においては、経験や勘に頼らないことです。

### 3. 健康な歯と歯周組織を保つ「まずはバイオフィルムをコントロールしましょう」

日々の口腔ケアを通して健康な歯と歯周組織を確保することは、よりよい印象採得やデジタル画像の獲得、ひいては質の高い補綴作製へとつながっていきます。

以上の 3 点を念頭において本書を読まれてはいかがでしょう。歯科技工士の視点に触れることで合点がいくことや思わぬ発見があるかもしれません。